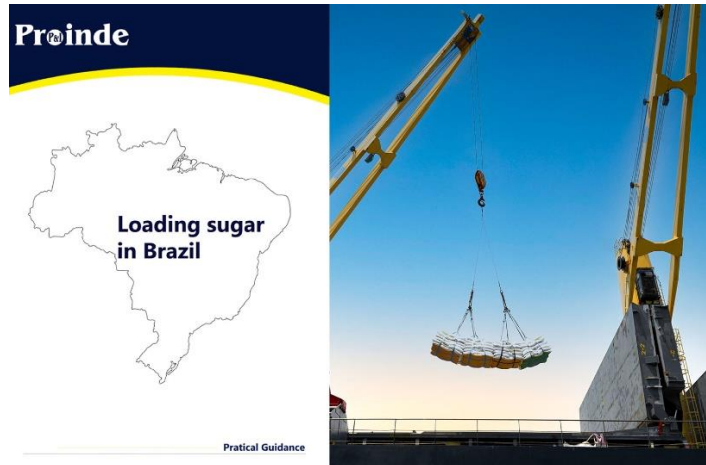


## ばら積み船での袋詰め精製糖の輸送

こちらは、英文記事「[Carriage of bagged refined sugar in bulk carriers](#)」（2021年12月2日付）の和訳です。

世界的なコンテナ不足と船混みにより、ブラジル産の袋詰め精製糖をばら積み船で輸送するケースが増えてきているという報告が、ブラジルの現地コレスポンデントである Representacoes Proinde Ltda より寄せられています。このようなばら積み船での輸送が増えれば、カーゴダメージのリスクが高まるおそれがあります。



過去 10 年、ブラジルの港からは毎年平均 2,200 万トンの砂糖が輸出されており、同期間中にブラジルから輸出された農産物の量として、砂糖は大豆に次いで多くなっています。ブラジル産の砂糖の大半は粗糖の状態ではら積み輸送されており、精製糖の輸出量は砂糖全体の 5%未満です。50kg バッグに詰めた砂糖は、ほとんどがコンテナ貨物として運ばれますが、一般貨物として運ばれることもあります。[Proinde 社の報告](#)によると、現在コンテナ需要が過熱していることから、袋詰めの精製糖をブレイクバルク貨物としてばら積み船で輸送するケースが増えているとのことです。この形で輸送する場合、運賃は下がる一方、荷役時間は延び、天候にも左右されます。さらに、コンテナ積みの場合より荷役中にダメージを受けやすくなり、雨にも濡れやすくなります。

Proinde 社がブラジルでの砂糖積みに関する総合[ガイド](#)を発行していますので、このガイドを参考情報として活用することをお勧めします。このガイドでは、粗糖と精製糖の袋詰め製品の輸送でカーゴダメージを防ぐためのアドバイスを紹介しています。

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されております。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。